

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・簡単な実験器具の正しい使い方や実験手順を十分に理解させることで、見通しをもって主体的に観察・実験に取り組むことができた。
- ・植物や生物の様子や成長についての知識を身に付けている。

(2) 課題

- ・問題を正しく読み取る力が弱い。資料を基に、結果を推測したり理由を説明したりできるようにしていく必要がある。そのために、科学的用語を覚え、問題の解き方に慣れる必要がある。
- ・課題に対して自分なりの予想を立てさせ、その予想を基に見通しをもって実験に取り組ませる必要がある。
- ・考察では、実験結果を基に課題に対して分かったことや気付いたことを書けるようにする必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	目標値を9.4ポイント下回った。	目標値を7.9ポイント下回った。	
第5学年	目標値を9.9ポイント下回った。達成率は2.0ポイント上回った。	目標値を5.4ポイント下回った。達成率は2.1ポイント下回った。	目標値を3.4ポイント下回った。達成率は昨年度より14ポイント下回った。
第6学年	目標値を1.1ポイント下回った。達成率は8.0ポイント上回った。	目標値を3.5ポイント下回った。達成率は7.2ポイント下回った。	目標値を3.9ポイント下回った。達成率は昨年度より0.4ポイント下回った。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
4年生は目標値を10.0ポイント下回った。昆虫の育ち方や体のつくりについての知識が身に付いていない児童が多い。	4年生は目標値を9.0ポイント下回った。実験の方法から、考えの根拠となる磁石の性質を説明できる児童が少ない。	4年生は目標値を9.1ポイント下回った。実験結果から考えられることや自分の考えを説明できる児童が少ない。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
5年生は目標値を9.8ポイント下回った。全単元において、科学的用語を使って答えることができる児童が少ない。 6年生は目標値を1.6ポイント下回った。人の誕生について理解している児童が少ない。 また、顕微鏡の使い方が身に付いている児童が少ない。	5年生は目標値を10.0ポイント下回った。正しく観察する方法やグラフから読み取って説明する力が身に付いている児童が少ない。 6年生は目標値を0.8ポイント下回った。グラフや資料の中から大切な箇所や注意すべき箇所を読み取り、具体的に示すことができる児童が少ない。	5年生は目標値を7.7ポイント下回った。 6年生は目標値を1.1ポイント下回った。 どちらの学年も、実験結果から考えられることや自分の考えを説明できる児童が少ない。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
実感を伴った理解になるよう、児童が自らの感覚をはたかせ、観察・実験などの具体的な体験活動に取り組む。 器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録させる。 事象提示を工夫したり日常生活とのつながりに気付かせたりするなど、指導の工夫を行う。科学的用語を覚え、活用させる。	学習問題・予想・観察・実験・結果・考察・結論・感想といった学習手順を理解させる。観察・実験の結果から分かったことを、提示されたキーワードで自分なりにまとめ、表現させる。 児童の ICT 機器の活用技能を高め、写真や動画を活用して、考えをまとめることができるようにする。	植物の栽培や昆虫の飼育という体験活動に取り組ませる。観察したり、調べたりすることにより生命の神秘性や連続性に気付き、体験を通して自然を愛する心情を育てる。 学習したことを、生活場面に結び付けられるようにする。そのために、児童の身近である教材・教具の工夫を図るようにする。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
実感を伴った理解になるよう、自然の事象・現象について調べる。また、正しく科学的用語を使えるように指導する。 見通しをもって主体的に観察・実験に取り組ませる。そのために、実験器具の正しい使い方や実験手順を十分に理解させる。 学習課題を明確にしてから、予想・見通し・観察・実験・結果・考察・結論・感想を踏まえ、学習内容を理解させる。	観察・実験などの体験活動を充実し、問題・課題を意識させる。学習問題・予想・見通し・観察・実験・結果・考察・結論・感想といった一通りの学習手順を理解させる。また、実験時の目的や観察の視点をはっきりとさせる。 考察では、実験結果を基に課題に対して分かったことや気付いたことを書けるように、課題に対して自分なりの予想を立てさせ、その予想を基に実験に取り組ませる。 児童の ICT 機器の活用技能を高め、写真や動画を活用し、考えをまとめることができるようにする。	身の回りの事象や環境を教材とし、自然の秩序や規則性に気付かせる。自然の事物・現象に関心を深めつつ、そこから問題意識を醸成するように意図的な活動を工夫する。 自分の考えをまとめる時間を十分に確保する。また、お互いの意見を伝え合えるように、グループ活動を多く取り入れ、対話的に学習を進められるようにする。